

・アーティストプロフィール

ピアノ 金子 三勇士 Miyuji Kaneko

1989年日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。6歳で単身ハンガリーに渡りバルトク音楽小学校に入学、2001年からは11歳でハンガリー国立リスト音楽院大学(特別才能育成コース)に入学。2006年に全課程取得とともに帰国、東京音楽大学付属高等学校に編入する。東京音楽大学を首席で卒業、同大学院修了。2008年、バルトク国際ピアノコンクール優勝の他、数々の国際コンクールで優勝。第22回出光音楽賞他を受賞。これまでにゾルタン・コチシュ、小林研一郎、ジョナサン・ノット他と共演。国外でも広く演奏活動を行っている。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」に司会者としてレギュラー出演。2019年5月にはCD「リスト・リサイタル」をリリースした。2021年には日本デビュー10周年を迎え、それを記念して2022年3月にドイツ・グラモフォンより新譜CD「フロイデ」をリリースした。コロナ禍でも、オンラインを活用したさまざまな企画を発信中。キシマロシュ名誉市民。スタインウェイ・アーティスト。



テチャナ・ラブロワ チェロ

ウクライナ国立ピョートル・チャイコフスキー音楽院卒業、1996年から30年に渡り、ウクライナ国立歌劇場のチェリストを務める。歌劇場での活動の傍ら、キーウ室内管弦楽団で第3チェロ奏者、ボリス・リャトシンスキー国立クラシック音楽アンサンブル(ピクター・イコニック指揮)で第1チェリスト(ソリスト)を、キーフスカ・カメラータでは第3チェリストを務め、マチェラータオペラフェスティバル(2004)に参加。直近ではウクライナ国立歌劇場(バレエ「勝者ワルツ」-チェロのロマンス)でソロパートを演奏し、2022年3月3日に4回目の演奏を行う予定だった。ヴォロディミール・パンテレーフ(Volodymyr Panteleyev)に師事。※今年3月にウクライナから日本へ避難。



ヤーナ・ラブロワ チェロ

国立ロッシェニ音楽院(イタリア・ベネチア)卒業。オーケストラ・デルテアトロレジオ・ディ・パルマ、オーケストラ・シンフォニカG・ロッシェニ、オーケストラフィラルモニカ・マルキジャーナ等で演奏。ソリストと室内楽奏者として、国内および国際的なコンクールに参加。若手音楽家のための国際コンクール「MuzikaNadezhdi」(ホーム、ベラルーシ)、アカデミックおよびコンテンポラリーミュージックの国際フェスティバル「Farbotony」(カニウ、ウクライナ)、国際コンベンション「21世紀の芸術」(ヴォーゼル、ウクライナ)、ウクライナ、ジュリ・ポランスキー・キエフを偲んでのウクライナ全国大会、子どもと若者のための国際アートコンベンション「SribnyDzvin」(ウジホロド、ウクライナ)等において、優秀な成績を収める。クラウディオ・カサデイ(Claudio Casadei)に師事。※今年3月にウクライナから日本へ避難。



デニス・ビシュニャ バス

キーウ市立歌劇場ソリストとして活躍。アレーナ・ディ・ヴェローナ日本公演「アイダ」(P.ドミンゴ指揮)エジプト国王役で出演。日本・ウクライナ外交関係樹立25周年記念コンサートに出演。

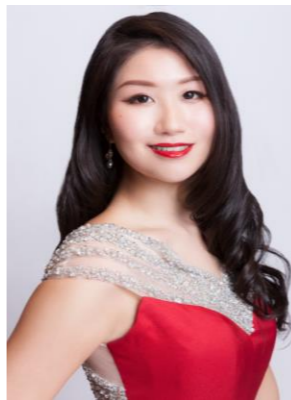


ウクライナ出身。キーウ国立音楽院声楽科卒業。

2000年、「New Names Competition」(ウクライナ)第1位。Golden Orpheus賞受賞。2005年より、キーウ市立歌劇場のソリストとして、「アイダ」ランフィス、「リゴレット」スバラフチーレ、「ラ・ボエーム」コッリーネ役等で出演。2010年、アレーナ・ディ・ヴェローナ日本公演では、ブラッド・ドミンゴ指揮「アイダ」にエジプト国王で出演し、好評を博す。同年、サイトウ・キネン・フェスティバル松本「サロメ」に出演。2011年、アルベルト・ゼッダ指揮「セビリアの理髪師」バジーリオ、園田隆一郎指揮「ルチア」ライモンドで出演。びわ湖ホール「ジルヴェスター・コンサート2013-2014」に出演。2014年、小澤征爾、テッド・テイラー指揮「フィガロの結婚」バルトロで出演。びわ湖ホール「リゴレット」スバラフチーレ、「ラインの黄金」ファゾルト、グランドオペラ共同制作「オテロ」ロドヴィーコ、「トゥーランドット」ティムール、日生オペラ「セビリアの理髪師」バジーリオ、「ラ・ボエーム」コッリーネ、「ルサルカ」森番、「魔笛」ザラストロ、「トスカ」アンジェロッチェで出演。2019年、全国共同制作プロジェクト、井上道義指揮「ドン・ジョヴァンニ」騎士長で出演。「第九ひろしま2018」、ヘンデル「メサイア」、バッハ「ミサ短調」、モーツァルト「レクイエム」など、オーケストラとの共演も多い。ウクライナ国立交響楽団、国立室内オーケストラ、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団等と共演。スイス、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、スウェーデン、デンマークで公演に出演。

栗原 麻樹 ピアノ

1988年12月東京生まれ。3歳より母の手ほどきによりピアノを始める。幼少の頃より、ヤングアーティストピアノコンクール、ピティナ・ピアノコンペティション、全日本学生音楽コンクール等、数多くのコンクールに上位入賞。2000年、2002年 浜松国際アカデミーコンクールにて第5位、第4位、併せてモストプロミシングアーティスト賞を受賞。2005年 フランス アルカッション国際ピアノコンクール第1位。大阪国際音楽コンクール第2位。この後16歳でフランス・パリに渡り、パリコンセルヴァトワール(パリ国立高等音楽院)に満場一致にて入学・パリエコールノルマル音楽院の最高課程を終了、パリスコラカントルム音楽院のコンサーティスト課程を満場一致にて終了。2009年マイエンス国際ピアノコンクール第1位。2010年から1年間文化庁海外芸術家研修員としてパリに派遣される。現在、地方音楽院講師、日本演奏連盟会員、全日本ピアノ指導者協会演奏会員。この間、かつしかシンフォニーヒルズ、パリ日本文化会館(仏)、カワイバウゼ、銀座ヤマハホール、南麻布セントレホールなど、国内外で数多くのリサイタルを開催し、好評を博す。これまでに深澤亮子、中村絃子、藤井一興、國谷尊之、中沖玲子、ジェルメーヌ・ムニエ、ブルーノ・リグット、フセイン・セルメット、ジャン＝マルク・ルイサダ、ガブリエル・タッキーノ、エリック・ベルシヨ各氏に師事。



新藤昌子 ソプラノリリコレッジャーロ

桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業、同研究科修了。1988年モーツァルト作曲歌劇「魔笛」童子 I 役でオペラデビュー後、二期会オペラ講座「ルル」東京室内歌劇場文化庁公演「うたよみざる」「みるなの座敷」「ラクゴ・オペラティック」現代音楽協会モノオペラ「赤ずきん」日本オペレッタ協会「白馬亭にて」東京アートオペラ「トリスタンとイゾルデ」を始め古典から現代作品まで多くのオペラに出演。2018年にはオペラデビュー30年を迎える。内閣官房東京2020国歌アドバイザー。キリンチャレンジカップ2022、キリンカップ2022 駐日大使閣下の依頼により、国歌独唱。東京2020内閣官房ホストタウン事業において、国歌アドバイザーを拝命し、国歌の成り立ちから発音、歌唱指導までの講座を開講。国歌の「うたう研究者」として著書2冊。メディアでは「題名のない音楽会」NHK、BS、NHKFM/TBSラジオ、等に多数出演。[調布わくわくステーション]「調布JCOM調布人図鑑」にも出演している。現在二期会・東京室内歌劇場会員。東京大学大学院情報学環作曲・指揮研究室演奏主任。



アンナ・ミツヴェル 司会

ウクライナの首都キーウに生まれる。2000年来日。
多数のCommercial Model(CMモデル)を務める。YouTuberでもあり、自分でYouTubeへの出演も行う。
世界法廷ミステリー(フジテレビ)、アメージング! (TBSテレビ)、キレ考えた人、天才じゃね(テレビ東京)
BENTO EXPO(NHK総合)出演。



マッテオ・チェッカーリーニ デジタルアート

2009年にヨーロッパで非常に名誉のあるENI賞を「Best Emerging Artist of the Year (2009年最高の若手美術家)」として受賞。
2011年にベニスビエンナーレに出展するのにイタリアの外務省に選ばれ、更に「ベニスビエンナーレにおけるイタリア人若手美術家大賞」マリアカラス協会賞を受賞。
現在は日本に拠点を置き、イタリアを代表する画家として駐日欧州連合代表部にて作品を永久展示されるほか、日本の大手企業や各界の著名人から依頼を受けて作品を制作するなど、活躍を続けている。
ルネッサンス期から受け継がれてきたイタリア絵画の伝統を守り、巨匠たちからインスピレーションを得たメタファーに富んだ、調和のとれた写実的な絵画を制作。
同時に、現代のテクノロジーとその可能性に魅了されている。また、CADを駆使して絵画のフレームをデザインしたり、コンピューターグラフィックスを駆使して、伝統と現代を融合させた独自の環境を創造している。



奈良フィルハーモニー管弦楽団

奈良フィルハーモニー管弦楽団は、「奈良にプロ・オーケストラを！」と、志ある音楽家たちが集い、1985年に結成したプロ・オーケストラ。メンバーは、高度な音楽教育を受け、ソロやアンサンブル等にも活躍する他、積極的に後進の指導にもあたっている。奈良での演奏会も定着し、その音の美しさと緻密なハーモニーは、聴衆から高く評価をうけている。

奈良県主催「なら・ミュージックフェスティバル“石丸 寛”トーク&コンサート」、「オープニングフェスタ“宮川 泰”ハッピーコンサート」、「山本直純”のゆかいなコンサート」に出演。20世紀最後の大晦日に生駒市でカウントダウンコンサートに出演、2001年「宝くじコンサート・奈良フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会」に出演、同じく、斑鳩町文化振興財団主催「奈良フィル&オリヴィエ・シャルリエコンサート」に出演。

同年6月大和郡山市21世紀記念事業「第九演奏会」に出演。以後2002～2005年、やまと郡山城ホール主催「大和郡山市民第九演奏会」に出演。

また、'99年、2000年、2001年香川県仲南町に招かれる。「子と親の楽しいコンサート」を各地で開催し、青少年の情操教育にも力を入れている。

日本を代表する指揮の秋山和慶氏と世界的なヴァイオリニスト、オリヴィエ・シャルリエ氏を迎えての20周年記念第15回定期演奏会は、大好評を博した。

やまと郡山城ホールにおいて2002年より毎年ニューイヤーコンサートに出演。

2006年から始まった「なら燈花会プロムナードコンサート」に指揮者 金聖響、横島勝人、阪哲朗、矢澤定明、和太鼓奏者 林英哲、ピアニスト メジャーエワ、近藤嘉宏、仲道育代、小川典子、横山幸雄、ジャズピアニスト山下洋輔、二胡奏者チェン・ミン、テノール歌手錦織健、ヴァイオリニスト川井郁子、チェリスト宮田 大と共演。

2008年10月東大寺大仏殿前に於いて、東大寺世界遺産登録10周年記念コンサートに出演。第1回「ならび！」に出演。

2013年より毎年、奈良県主催「ムジックフェストなら」に県民一般公募の合唱団と第九を演奏。その美しく迫力ある演奏に好評を博す。2015年11月1日青島広志氏を迎えて奈良フィル30周年特別記念演奏会を開催。30周年のお祝いに相応しく楽しいコンサートに会場が一体となり、大成功を収めた。

'97年に第1回定期演奏会を開催し、以降、年2回のペースで定期演奏会と、月1回のサロンコンサートを開催。

結成当初の「もっと楽しいコンサートを！」を今もモットーに、近畿一円の公共団体及び各種団体からも招かれ、演奏活動を行っている。

奈良県のプロ・オーケストラとして日本オーケストラ連盟に籍を置く。

日本オーケストラ連盟準会員。



鹿ノ台アザレアコーラス

1982年に結成し奈良県合唱連盟に加入。1990年には10周年記念リサイタルを主催。以後、5年毎にリサイタルを開催している。関西合唱コンクールにも出場し、金賞等数々の賞を受賞。1992年ロイヤルオペラハウスの歌手たちによるオペラ・ガラコンサートに出演。1996年には全日本おかしんコーラス全国大会に出演、本年8月に開催された全日本おかしんコーラス全国大会に奈良県代表として12回目の出場を果たす。

